

広聴特別委員会記録

平成30年5月29日

【開催日】 平成30年5月29日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後1時～午後2時10分

【出席委員】

委員長	長谷川 知司	副委員長	宮本 政志
委員	伊場 勇	委員	奥 良秀
委員	杉本 保喜	委員	高松 秀樹
委員	中岡 英二	委員	中村 博行
委員	藤岡 修美	委員	松尾 数則
委員	吉永 美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

副議長	矢田 松夫		
-----	-------	--	--

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

事務局長	中村 聡	主査兼庶務調査係長	島津 克則
------	------	-----------	-------

【付議事項】

- 1 前回の議会カフェについて
 - (1) テーマ（発表内容等）について
 - (2) 進行や司会の役割について
 - (3) 議員の役割分担について
 - (4) テーブル分け、各テーブルの進行・発表について
 - (5) 意見の取扱いについて
 - (6) PR方法、チラシ、ポスターの内容について
 - (7) アンケート内容について
 - (8) その他
- 2 6月議会報告の形式について
- 3 その他

長谷川知司委員長 ただいまから広聴特別委員会を開会します。今回の付議事項はお手元にありますように、前回の議会カフェについて、2番に6月議会報告会の形式について、3、その他です。この次第に沿っていきたいと思います。最初に議会カフェのテーマについてどうだったか、発表内容などについて皆様方から随時意見を言っていただければと思います。別に順番はございませんので、自由に言っていただいて結構です。ずっと流していきますので、後から思い付いたらそれについて言われて結構です。2番の進行や司会の役割についてありますか。今回、司会の役割は大きかったと思います。3、議員の役割分担について。会場に何人集まって、どのような島で、どうするということが臨機応変に対応されたので、あるテーブルでは一人、二人、三人という形でいかれたと思います。4番、テーブル分け、各テーブルの進行、発表についてということですか。大体一つの島、6人ぐらい以下になるようにして島を作られたと思うんですけど。意見の取扱いについて、これについては皆様方のお手元に委員会ごとに分けた資料がございます。これは事前にメールで送っていたと思いますので、見られていると思います。6番、PR方法、チラシ、ポスターの内容について、どうだったか。アンケートの内容について、これについては各班でチェックされたと思いますので。それから、その他であります。分けておりますが、自由でいいです。何番でもいいですので意見がありましたら、反省点が主かと思いますが、言っていただければと思います。

松尾数則委員 良いところからいきましょう。今回、議会カフェをやりまして、褒められたというのもおかしいですが、自治会の回覧をやったことが非常に良かったと褒められました。執行部にも迷惑を掛けて、そういう形がとれたんですが、これからも是非ともやっていったらいいなという思いがあります。

長谷川知司委員長 私も聞いたんですけど、市広報の中に書いてあっても、開いてそこまでは読まないし分かりにくいというのが、今回の班回覧であれば、すぐに目が行ったということは聞いております。

杉本保喜委員 高千帆福祉会館は土曜日だったので、「土曜日の夜は」という意見が出ていたので、いつやるかというのを再度検討する必要があるんじゃないかなと思います。

やないかなと思います。

長谷川知司委員長　今回は夜が全てでしたけれど、昼間ということも検討課題ということですね。

奥良秀委員　テーブル分けで出席者を各島に入れるのはいいんですけど、私が担当した島が、性別は別として、意見を言うのが恥ずかしいとか、言いにくいとか、だからオブザーバー的な席を作ってほしいという意見がありました。一般の方が意見を言うというのはかなり難しいと思いますので、そういった配慮も今後は必要かなと思います。

長谷川知司委員長　今回テーマについては、議案について常任委員会、特別委員会から四つほど出しました。それについては今後もうこういう形のほうがいいかどうか、そういうこともありますので。

高松秀樹委員　議案を中心としてやっているんですが、必ずしも議案に拘束されることもないのかなという気がしています。市民が求めているものを報告していく形が一番いいんじゃないのかなという気がします。そして皆さんの意見の中で、議会の中でどういう議論があったのかということを知りたいという意見もあったので、その辺をどういうふうに取り扱いたらいいいのかなというふうに思います。理科大は基本的に事実関係を報告したにとどめたんですね。委員からの意見とかを入れていなかったもので、それを入れたほうが良かったのかなという思いがありました。

中村博行委員　ABC班2回ずつ、6会場でやって、参加者の多い場所とそうではない場所と、様々な経験をしてきたと思うんです。初めてにしては多くても、少なくとも議会側が対応できたのではなかろうかと見ています。もう何回かはこういう形でやっていくべきではないかという気がしています。

長谷川知司委員長　今言われたのは、次の6月議会報告の形式についてということにもなりますので、そのときに再度話しましょう。

高松秀樹委員　中村委員の言われたとおりで、僕は中村委員のグループでした。両方二十何人、たまたま多かったんですよ。いろいろ聞くと、やっぱり議員が連れて来られていたみたいですよ。それを考えると、議員側から御案内をしないと、なかなか来ないというのも現実だと思うんです。

最初にやるときに、どうしようかというときに、僕は議員が何人か連れてきたらいいのかなと思いましたが、結局自然に任せようということで、こういう状況。結果が表しているんじゃないかという気がして、一人でも多くの市民に来ていただくというところは、ちょっと知恵を絞っていく必要があると思います。

中村博行委員 参加者を増やすというのは以前からの大きな課題だと思っています。当初は一人が3人以上というものを設け、それではやはり難しいということで二人以上という段階を踏んできたと思うんです。動員を掛けるというか、議員が連れてくるということになると毎回同じ人になるような傾向があるので、その辺のことも踏まえて考えてみると、今回多かったところは新人議員がかなり御苦労されたという点があるかと思っています。B班は共に4人という結果が出ていますけれども、動員を掛ける、掛けないというのも限界があるだろうし、一工夫が要ると思います。

長谷川知司委員長 確かに声を掛けるにしても、最初はいいんですけど、何回も同じ人に頼むと「もういいだろ」と言われるし、ほかの人と言っても、一回は頼めるけど、何回もというのは難しい場合がありますね。そこを工夫しないといけないと思います。

高松秀樹委員 過去は来られた方が「もうこれじゃあ来たくないよね」という意見があったんですよ。どんどん減っていくんですよね。だから僕は今回来た市民の方が「ちょっと面白かったよ」というのを次の人に伝えていただくのが一番大事な事かなと思います。これが前みたいに「面白くなかった」と言ったら、来られた方も次に来ないんですよね。だから今回はこういう形でやって良かったし、来られた方にも、知り合いの方がいらっしゃればフォローしていく形で、ちょっとずつでも増やしていくという形をとっていったらどうかなと思います。

長谷川知司委員長 高松委員が言われた「これじゃあ」というのが堅苦しい、報告だけに終わっているというようなことかなと思います。

杉本保喜委員 高松委員の言われるとおりだと思うんです。その結果として我々は議会カフェという、飲みながら話そうよという雰囲気作りを、まず1回目をやってきたというのが功を奏していると思うんです。それから私のグループの女性の方が「私は聞きに来ただけだ」ということで席に着いてくれたんだけど、「どうですか」と促すと、意見を言うわけで

すよ。小グループだからちょっと行ってみようかという雰囲気はできてきているんじゃないかなと思うんです。常連の方たちは「もっとみんなの中で言いたい」という意見も出されていますけど、そういう方たちはほかの組織の中で意見を述べたりしている人が多いわけですよ。ところが、そういう女性は本当にそこにしか来なかった。「こういうのに初めて来ました」という中で、水を向けると「私はこういうふうと思う」という意見も出してくれたので、私は中村委員が言われるように、確かに反省も必要だし、この一つのステップを引き続き続けて、いろんな感想を集める中で、次のステップを見ればいかなと私は思います。

長谷川知司委員長　今回変わったのは、やはり堅苦しさをのけたということと、PR方法が相当変わっていきまして、各会議所とか金融機関の窓口にもそういう情報を全てお知らせするようにしたということですね。

高松秀樹委員　回覧板を入れたり、会議所で流したりというのが直接集客に効果があったかということ、あったんだけど、非常に少ない効果だったと思います、今回は。しかしながら、多くの市民や事業者の人が見たと思うんですよ。こういうのをやっているなという認識が新たにできたので、今後は、僕らが事あるごとに「6月またあるですよ」という話でお誘いしたらいいのかなと思っています。私の会場は両方とも20人を超えたので、反省点としては非常にグループで話しづらかった。多いので、テーブルで立って物を言わないと聞こえない。向こうも声が通らないので、聞き取りにくかったかなと思います。厚狭でそうだったので、きらら交流館は四つを全部バラバラに離れたんですよ。離すんだけれども結構うるさいような状況。逆に言えば、今までそんなことはなかったんですよ。皆がしゃべることはなかったもので、効果の一つだけど、そこをどうにかして対応していけたらいいなという気はしました。

杉本保喜委員　埴生でやった場合も人数はそう多くはないんだけど、一グループが5人ぐらいだったんだけど、やはり隣の声が入って、聞きづらいという意見はありました。今言われるように間隔とか、その辺りは考慮する必要はあるかと思っています。

中村博行委員　意見が活発に出るのはいいんですけど、テーブルで議員が一人の場合、筆記が大変だったという気がします。質問を受けて、回答して、次から次に来ますので、その辺の工夫も課題として考えるべきだと思います。

長谷川知司委員長 3班に分けているから、どうしても7人なので、一人ということになりますけど、対応するのであれば、班を二つにするということも一つの方法だと思います。3班にこだわる必要はないと思いますが、どうしても対応すべきであれば、そういうふうにしなればいけないと思います。

高松秀樹委員 グループを作ったときに、そのグループの進行役がどういうふうにそのテーブルを進行するのかというのを、ある程度決めておいたほうがいいのではないかと思います。例えば、議員というのは市民から言われたときに、「いや、そうじゃないよ」とすぐ言い返す癖がある議員も多いんですよ。それをどういうふうに市民との会話に持っていくのか、又は市民の意見をどうやって引き出すのか。さっき奥委員が言われたように「私は何も言いたくないんです」という人たちをどういうふうに扱っていくのか。どうしてもしゃべりたくない人は、僕はそれでいいと思うんですよ。だから、あくまでもグループ内の進行役というのが一番重要なポジションで、この人によって「良かったな」と思うのか、「ちょっともう嫌だったな」というのが出てくるので、ある程度方向性を決めていたほうがいいのかなという気がします。

長谷川知司委員長 ファシリテーターとしての役目を皆さん理解して、きちんとされていればいいですけど、なかなかそういう経験がない場合もありますので、難しかったところがあると思います。2番の6月議会報告会の形式について、3月をやってみて、大まか好評だとは思っております。ただ、別紙のような意見が書いてありますように広聴委員会の目的としては市民の皆さんから意見を聞いてそれを自分の政策に生かしたい。あるいは議会としての政策提言にしたいということまでもにらんでいかなければいけないかと思うんです。ただ、皆さんの意見を聞いて、またその回答を返して終わりというのではないと思います。その前に3月議会の意見、この意見は各委員会に振って、各委員会で取捨選択されて、回答を返していただくということによろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）そういうことで、この意見は各委員会に振って、回答を返していただくようにします。では6月議会報告会の形式について、まだ3月議会一回しかやったことがないんで、方向性は難しいと思いますが、皆さんの意見をお聞きできればと思います。

高松秀樹委員 一回しかやっていないのはそのとおりで、二回目も基本路線は一緒という形でやるべきだと思います。ただ、場所によっては参加者が

少ない場所もあったので、そこについて、どうやって増やしていくのかというの考えるべきだと思います。僕は最初のうちは議員二、三人必ずお願いします。又は自分が参加する場所についてお願いしますとか、ある程度枠を設けたほうがいいのかという気がしています。

宮本政志副委員長 高松委員の意見に賛成で、今回1回目は各議員が声を掛けるというのはしていないですけど、次回は二、三人声を掛けて、まずは人数を増やすという方向にあって、何回か重なるときにいつも同じ方に声を掛けてしまうというところは改善していけばいいと思います。私も6月議会の報告会は議員一人が二、三人ずつ声を掛けるということに賛成です。

長谷川知司委員長 声を掛けることに意見はありますか。最低でも二人以上ということで何人でもいいですよ。声掛けをしてみるということで3月とは違うところということです。また、今までは夜しかしていなかったですが、これについてどうかお聞きします。昼間もしたほうがいいのかあれば。

杉本保喜委員 その前に例年でいくと、中学校校区の中で場所を変えていますよね。高千帆校区なら、高千帆でやったら次は有帆という形を変えてきたわけです。それを踏襲するか、多く集まり島を作るためにはある程度のスペースが必要だということで、ここにせざるを得ないということも出てこないとは限らない。その辺りのところを決める必要があると思うんですけど。

長谷川知司委員長 会場設定ですが、公民館であれば四つぐらいの島ができる部屋はあるんじゃないかと思っていますが、どうなんですかね。有帆も結構広い会場がありますよね。

高松秀樹委員 校区でほかはどこがあるんですか。埴生、津布田もか。

長谷川知司委員長 本山、赤崎。厚陽だけは、厚陽、高泊です。

高松秀樹委員 厚陽、高泊でくくりですか。

長谷川知司委員長 そうすると大体二つの会場を行ったり来たりということになります。

高松秀樹委員　そういう意味からしても、今回は変えたほうがいいのかもかもしれませんね。やはり高齢者の人たちは「ちょっと遠いからね」という人もいらっしゃるので、変えてみて現状を把握できたらいいんじゃないですか。

長谷川知司委員長　会場の関係でどうしても四つぐらいの島が取れないというのであれば別ですけど、そうでなければ変えるということはどうでしょうか。変えるというのは、違う小学校区に変えるということです。（「従来どおり」と呼ぶ者あり）そういうことで。昼間か夜かについてはどうですか。前は昼にしたこともあるんです、特に冬場は。そうするとお年寄りの人は出やすかったです。結構出られたところもあります。議員の呼び掛けも相当あったんですけど。

高松秀樹委員　基本的に若者は、ほぼ来られない。この前の反省の人数を見ても若い人が少ないじゃないですか。若い人に来てほしいというのもあるので、僕は昼間より、今の時間帯ぐらいのほうがいいんじゃないかという気はします。

長谷川知司委員長　今から夏になるから、夜でも動きやすいと思います。冬場はちょっと考えないといけないと思いますけど。6月は今までどおりの夜ということと、平日ということでもいいですか。若い人が動きやすいということになると、どうしても7時からになると思いますね。テーマについては議案が出ていませんで、あくまでも、先ほど高松委員も言われましたが、議案に限る必要はないという理解でよろしいですかね。場合によっては、委員会ではこのたびはなしよということもあるかもしれないですね。その分、後のディスカッションの時間が取れますから。

伊場勇委員　いい意見がたくさん出ているなと思います。時間は7時からで、今回土曜日は高千帆でしたか。すごく少なかったんですよ。ウィークエンドの7時からという時間は議会報告会より家族を優先された。いわばプライオリティーが低かったということだと思うので、そこは平日に動かしたほうがいいんじゃないかなと思います。また議会報告会が温まってきたら、土日に開催できたらすばらしいんじゃないかなと思います。

奥良秀委員　若い人の話が出たんですが、19時から21時という間は、若い人といっても、どこが若い人なのかという年齢があるんですが、20代から30代、多分この時間は出られないと思うんですよ。伊場委員が言われたとおりに、もっと若い人を出すためには日曜日や、日曜日に果た

して来てもらえるかというのもクエスチョンですけど、やはりいろいろ試してみないと駄目かもしれませんし、結果的に来ないかもしれません。ただ、私の思う若い人は20代、30代なので、19時から21時は難しいかなという感じだと思います。

長谷川知司委員長 確かに自分を振り返ってみれば、20代、30代は余り時間的に余裕がない時代だと思います。そういうことであれば、将来的に日曜日に商業施設での開催ということも考えることも可能だと思います。

中岡英二委員 若い人の参加、もちろん時間帯とか曜日も大事だと思いますが、その方たちの関心のあるテーマ、今の人たちだったら9月に給食センターができますよね。そういうのには関心があります。そういうのを聞いてみたいとか、テーマにも関心のあることを二、三持っていくのも一つかなと思います。

高松秀樹委員 中岡委員が言われたように、委員会の中でよく協議をしたらいいのかなと思います。つまり、一番何が関心あるのかというところ。それが議案じゃない場合が多々あるのかなという気がします。そして、議案どうするのという話になるんですよ。僕は議案が可決されたか、否決されたかという一覧表を配るべきじゃないかなという気がしています。来られた皆さんに、誰が賛成とか、反対とかではなくて、議会としてどういう態度を取ったのか、どういう議案があったのかということ、一枚もので資料として配るべきだと思います。

長谷川知司委員長 議案名と可決、否決だけであればいいんですけど、議案名だけでは分かりにくいというのがあって、どこまで書くかなというのが前、話し合ったことがあったんです。議案名だけでよければできますけど。

高松秀樹委員 もちろん数多く出る議案を、そのテーブルで全部説明することはできませんよね。プレゼンで説明することはできませんよね。単なる資料としてそれをお渡しして、例えばテーブルの中、グループの中で「議員さん、こう書いていますけど、これって何ですか」とか、また家に持ち帰って、こういうのがあるというのが分かるということが重要なんじゃないかなという気がします。

長谷川知司委員長 今言われるのであれば可能だと思います。議案名を書いて、

その可否を書いて、それを皆さん手に持たれていれば、それについてのディスカッションもできますから。

中村博行委員 6月議会ですが、従来から産業建設では6月はほとんど議案がないということがあるということで、そのたびに所管事務の内容を報告会でしている。その所管事務が大抵市民に一番関わりのある内容でやっています。3月、9月に比べて全体的にも議案はそんなにかと思わないので、そうすると分かりにくい議案名は何か補足を入れたら、それぐらいはできると思いますので、そういう方法も考えられたらと思います。

長谷川知司委員長 今まで3班に分けていました。3班では議員がテーブルに着くのは一人ぐらいなので、二班にするということも一つあるんですが、これについて皆さんの意見があれば。

杉本保喜委員 皆さんの意見を聞きますと、多いとなかなか意見が出にくい、また聞きづらいというようなところがありますので、臨機応変に来られた方の人数によって、2班がいいよね、4班がいいよねということで。

長谷川知司委員長 議員の班をABCと三つに分けている。それをAB二つにするかの話です。

吉永美子委員 来られた人数によって対応が全然違ってきますよね。2班にするとかかなり議員が多くなって、うちみたいに2会場とも4人しか来られない、議員だけが一杯いるみたいな感じになるから、厚狭とかが7人のメンバーで対応がどうだったかということはいかがだったですか。それで対応は何とかできたんですか。何とかできたのであれば、今の体制で。50人とか来たらあれだけど、マックスで27人ぐらいですかね、一番多いところで。一気に50人になる可能性は低くないですかね。それを思うと3班でいいんじゃないですか。

長谷川知司委員長 分かりました。取りあえず3班でもう一回やるということで行きましょう。

高松秀樹委員 僕も宮本君も言うのは増やしていこう。議員二人ずつぐらいお願いしますということを前提にすると、4人はもうないんですよ。どの会場も15人から20人集まる。その上で委員長はグループ三つを二つにしたほうがいいんじゃないかという話なんですよね。その理由は記録

が大変だったというのと、もう一つは二人いると二つの委員会に関わる
ことなので、それ分かりませんというのが極力少なくなるというので、
二つに分けると議長を除くと10人と11人かな。4グループあると1
0人で8人でしょ。二人しか余らないので、進行役と何とかなので、吉
永さん、ちょうど良さそうなんですよ。もちろん4人しか来られなかつ
たら、どうするかというのはリーダーの責任で考えてもいいんじゃない
かなという気はするんですけど。僕らの負担は、3会場行くという負担
は増えるんですけど。

吉永美子委員 今の記録が大変だったというのは、発表するための記録が大変
だったということですか。

長谷川知司委員長 各島で、まとめて発表。

吉永美子委員 そうすると困るよね。二班にしたらどうですか。少ないときは
控えて後ろにいるとか、臨機応変にやるしかないね。

長谷川知司委員長 二班でやってみるというのも一つの試しだと思います。固
定する必要はないですから。

高松秀樹委員 今回、新人議員も多いので、よく分からない部分を質問されて
答えに窮するという場面も恐らくあったんじゃないかなと思うので、そ
ういうときに二人ぐらいいるといけるんじゃないかなという気がします。
ちなみに僕はきらら交流館で一人だったんです。一人で進行と記録を取
ったんですけど、全くごちゃごちゃになってしまって、どこまでが意見
で、何が要望でという区別が付きにくいんです。そういうことからする
ともう一人いたらよかったなという気がしましたので、できるならば二
グループでお願いしたいと思います。

長谷川知司委員長 固定じゃないですが、6月は二グループでやるというこ
とでどうでしょうか。一人出るのは3回になりますけど、二班でというこ
とにします。ほかに前回と6月の議会カフェの変更点を言ってもらえれ
ば。

吉永美子委員 小さいことですが、飲み物どうします。暑いときだから冷た
いものにするとか、その辺も意外に大事なところかもしれません。

長谷川知司委員長 アイスコーヒーのペット、1リットルぐらいならありますよね。あれを何本か準備するかどうか。ホット以外で検討する。なかったらしょうがないけどということで、ほかに。

高松秀樹委員 前回のPR方法はチラシとポスター。このほかは議会日より、広報ですか。

長谷川知司委員長 市広報には載せていません。広報と自治会便、両方載せるということはダブるからということで、どちらかということです。

高松秀樹委員 そのほかは何かPRあったんですか。

長谷川知司委員長 金融機関にポスターを貼っていただいた。

高松秀樹委員 サンサンきららは利用したんですか。

長谷川知司委員長 記事として載せていただけるということは可能ですが、今回は使っていないです。「市のインフォメーションで聞いた」と呼ぶ者あり）ほかには。

吉永美子委員 以前も申し上げたことがありますけど、今回は4月20日だったと思うんですけど、自治会長が集まる会合が埴生公民館であって、そこでチラシを配らせてもらって、アピールをしてきまして、24日に埴生公民館でありますというふうに申し上げました。私は24日に行っていないので、来られた方が一人でも来られたかどうかはチェックできていないのですが、前、埴生公民館で別の会合があるときをお願いしたときに、議会報告会をやっていることさえ知らない方もおられるんだなということを思ったので、できれば、そういう事前にあるような会合で行けるときはPRをさせていただく時間を取るといふことのトライはいかがでしょうか。私は極力やるようにしていきまして、それによって一人でも来てくださったらという思いで。前も申し上げたけど、埴生公民館での会合で言って、埴生地区の防災訓練のときにも話をさせてもらって、その後、議会報告会があったときに、一人の壮年の方が「これでよかったかね」と言われた方があったから、どちらかにおられた人だったんだなと思ったんです。だから、やはりアピールはし続けることが大事なのかなと思うので、そういった場を極力捉えて、委員会のメンバー全員がトライしていくことも大事じゃないでしょうか。自分が出掛けて行ってア

ピールしてくるという、当然チラシとかもすごく大事ですけど、言葉で訴えてくるということも大事かなと思うんですけど。極力そういう場を捉えたいと思っています。

長谷川知司委員長 議員はいろんな会合に出ると思いますので、そういうときにそれを積極的に言わせていただくということで、議員連絡会で話したいと思います。

吉永美子委員 議員連絡会で言われるのもいいんだけど、まずはやはり広聴のメンバーがそれぞれ努力をすることで、またほかの委員じゃない皆さんにもそういうことをお願いしたいということが言えるということはありませんかね。広聴委員会のメンバーで、そういう場を極力捉えていく。それぞれ地域におられるわけだからということです。議員連絡会で皆さんにお願いする以前に、このメンバーでという意味ですけど。

長谷川知司委員長 それは当然やりますけど。

吉永美子委員 議員連絡会と言われたから、ほかの議員の皆さんにもお願いしていくことは大事だけど、ここの委員会でそういうことを皆さんが同調していただければ、このメンバーでまずトライをしようということをお願いしたい。

長谷川知司委員長 今の意見に反対の方はいらっしゃいませんね。

高松秀樹委員 話を変えていいですか。チラシを作ったじゃないですか。今回これに予算、お金は使っているんですか。

島津議会事務局主査 紙代だけです。

高松秀樹委員 チラシ、ポスター代として予算化できないんですか。

長谷川知司委員長 可能だと思います。予算要求してですね。

高松秀樹委員 伊場さんとか、宮本さんが作られて良かったんですけど、あの紙にこの印刷かと思って、ポスターは拡大しただけだったじゃないですか。そういうのは予算化してどうにかならないのかと単純に思っただけなんですけど、どうなんですか。

長谷川知司委員長 この議会カフェのチラシを印刷して、もっと色鮮やかに、目に付くようにということだと思います。外注ですね。

島津議会事務局主査 可能かどうかなら、可能です。

中岡英二委員 何枚ぐらいチラシは作られたんですか。

島津議会事務局主査 チラシは今回、小野田商工会議所に1,500枚、山陽商工会議所に500枚、班回覧が3,000枚ぐらいあったと思いますので、6,000枚近くは作っていると思います。

長谷川知司委員長 今年度の計上でなければ、実際頼むのであれば、予算要求をして来年度になると思います。これは後で事務局と話します。

藤岡修美委員 議会に関心がある人は議会だよりとかインターネットを使って見ていると思うんです。カフェのターゲットはどんな人たちに来てもらうかで、こんなに自治会の回覧とかで見てもらっても人が来ない。ポスター貼っても人が来ない。興味持っている人は来てくれると思うんですけど、そこが難しいのかな。今回のカフェで皆さん良くなったと言われているので、良くなっているんだと思うんですけど、どの辺の人たちに来てもらうというターゲット、議員が声を掛けたら人は来ると思うんですけど、それでいいのかなという気がします。それなら内々で自分の身内に議会報告をすればいいだけの話で、何かそんな気がするんですけど。

高松秀樹委員 言われるのは本質的な話なんです。なぜ議会報告会をするのかということころは、後日でもいいので、それはしっかりこの場で議論をしながらいくのは、僕は正解かなと思います。議会報告会は相当深い意味があるんだと思っています。今度いろいろ議論されたらどうですか。

長谷川知司委員長 よろしいですか。皆さんも疑問を持たれていることだと思いますので、それは共通認識したいと思います。ほかにありますか。6月議会報告会については大体3月と同様にやるということで、変わったのは平日ということと、3班を2班に分けるということ。テーマについても議案に限らないということ。それから飲み物はホット以外で考える。チラシはすごくいいと思いますので、こういう形で6月もさせていただくということでもいいですか。ほかにないようでしたら、その他にいきま

す。2時まで休憩します。

午後1時52分 休憩

午後2時 再開

長谷川知司委員長 では、休憩を解きまして再開いたします。その他ということで、現在、まちづくり会議M i r a iから市民懇談会の申入れがありまして、この6月4日に開催するように設定しております。これについて、皆様にお諮りしたいということが、まずM i r a iの方は広く皆さんに参加というか傍聴を呼び掛けているということです。この傍聴については、お手元の資料にありますように、実施要綱には傍聴について一切明記してありません。過去、傍聴を許すか許さないかということについては、申請者と議会で話し合っただけ許した例もあるということです。今回、こういう広く傍聴を求められていますので、これについて、どうするというのは話し合っておりませんが、相手方が結構広く呼び掛けているということです。それはもう仕方ないかなと思います。要綱に書いてないですから。ただ、あくまでも傍聴ということですので、この要綱の中について、第4条ですか、懇談会の役割というのがございまして、「懇談会における司会、テーマ報告者及び記録者は、該当する委員会において協議し、決定します」とありますので、これについては、担当委員会のほうで余り混乱がないような形で決めていただくということではないですかね。この委員会でどうするということではなくて、担当委員会で話し合っただけで決めていただきたい。ただ、アドバイスは当然いたしますが。

中村博行委員 まちづくり会議M i r a iの樋口さんから、当日の進行という形で、こういう流れでどうでしょうかというのは頂いています。従来の市民懇談会は、申請した市民側がその内容について進行されていたので、それは問題ないかなということで、進行はお任せをしたいと考えています。ただ、懸念されるのが傍聴の方がどのぐらいいらっしゃるかということによって、その雰囲気も変わりますし、確かに傍聴者に対して、何らかの制約と言ったら語弊がありますが、ある程度のブレーキが掛かるような進行をしていただきたいというふうな願いはしようと思っています。

長谷川知司委員長 今、担当委員会のほうから、そういうような方向でということでした。これで一応やってみて、それで今後、傍聴者に対してどうするかというのを決める必要があれば、この市議会の実施要綱の中に加えていかないといけないと思います。

高松秀樹委員 先日、建設と総務でこの市民懇談会を行ったんです。僕は総務の委員として行きました。主催者というか、M i r a iの方が進行役をされて、こっち側にも人がいらっしやったんです。僕はみんなM i r a iの方かと思ったんです。でも、その場で意見を求めたわけですが、こちらの方に。聞いたら「傍聴です」というふうに言われたんですよね。結局そのときは、傍聴も発言をされたという、いわゆる前例が既にあったというふうに思います、この議会では。そして、過去の議会でも、僕が参加した市民懇談会でも、いわゆる傍聴の方に意見を聴いた経緯もあります。そういうことも含めて、市民懇談会の目的はそもそも何なのかというのを突き詰めていって、そこをきちんとしなきゃいけないなという気はしますよね。実施要綱を作ったときの根本の精神は担当委員会と申込者の代表者がよく意見調整をして、どういうふうに進行するかを協議して、そして運営しましょうというふうに当時決めたと思っておりますので、今、中村委員長が言われるように事前に協議をして、どういう運びをするのかというような協議をしていけば、あんまり問題は起きないのではないのかなという気がします。

長谷川知司委員長 今言われるとおりで、中村委員も申請者の方と話し合われているということであり、もし紛糾したときは当事者同士で、そのとき話し合ってやっていければと思います。ただ今後、この要綱についてどうしてもパーフェクトではありませんから、必要があればまたこれは考えていく。取りあえず6月4日の市民懇談会をやっていただくということで、よろしいですかね。

藤岡修美委員 私も先日の市民懇談会に出させていただいて、当日いきなり資料を手渡されて、どう思うかといきなり意見を求められて、ちょっと困惑した記憶がありますので、やっぱり事前の打合せがしっかり必要かなと思います。

高松秀樹委員 僕もあのときに、終わっていろいろ考えたんですよ。果たしてこれが本当に市民懇談会だったんだろうかと。言われたようにその日に資料を渡されて、どうだというような形だったんですよ。実は僕終わっ

た後、下瀬さんが元議員だったので、下瀬さんに電話して目的は何だったんですかと、僕たちはあくまでも市民懇談会というふうに思って参加しているんです。つまり懇談の意味だと。別に議会が追求するという話ではなくて、お互い懇談をしながら、情報交換をしていくと。方向性が明確にできれば、もちろんそれでもいいんですけど、そんな感じじゃなかったですよという話はしたんで、そういうことも含めて次の市民懇談会は中村委員長、御足労ですけど、よく向こうの主催者側と話をされて、懇談会が混乱会にならんように、僕はしていただきたいなというふうに思います。

宮本政志副委員長 私も傍聴の関係はこの2条に市内で活動を行う団体及びおおむね10人以上の市民グループですから、今回は団体としてはM i r a iさんのほうが団体として要望があったわけですよ。そうすると傍聴者というのは団体に所属しているわけでもないでしょうし、別々の市民グループ10人以上としての応募をしたわけでもないんで、基本的には傍聴者の発言ということ余りなあなあにするんじゃないんで、やはりこの実施要綱というのをあわせて内容を変えていく、必要ならば変えていかざるをじゃなくて、もう今既に必要だと思うんで、どういうふうなことで変えていかないといけないかということ話し合っていないと、今の話の内容では傍聴者が話を前回しました、今回していませんとかじゃなくて、これに該当しませんからしてないということは、発言はやっぱりしてはいけないと私は思うんですよ。でも発言させてあげるべきじゃないかという意見もあると思うんですよ、傍聴としてせっかく来ていらっしゃっているわけですから。そうするとそれも踏まえた上でこの実施要綱の見直しというのを早急に私はやるべきだと思います。

長谷川知司委員長 今、実施要綱の見直しを早急にということは、確かにしないといけないと思います。ただ、この6月4日の懇談会については、これを受けた時点では、この実施要綱は現在の状況ですから、ちょっと間に合わないと思います。これについては次回の委員会で要綱をどうするかというのも、その4日の結果を聞いて、また皆さんで考えたいと思います。

宮本政志副委員長 いや前回のとか、今回のとかの状況を見てというのではなくて、状況によって左右されるのではなくて、私は市民懇談会、さっき高松委員がおっしゃったように、どういう趣旨で、どういう理念を持ってこういうことを始められているのかというのを前提に、それぞれの委

員が考えて、どういうふうに変えていくか。6月4日を踏まえてとか、過去に行われた市民懇談会の雰囲気決めていくというのはちょっと懸念するんですけどね。

高松秀樹委員 副委員長が傍聴と言いましたけど、傍聴というのはあくまでも傍聴のはずなんです。つまり傍らで聴く者を傍聴という。傍聴は基本的に発言の機会はないということなんですよ。傍聴者に発言の機会を持たずというのは、今後、私たちの委員会運営にも支障を来してくるので、傍聴と言われると、これはちょっともう無理だという話だと思うので、今回については中村委員長がその辺もよく話をされて、このグループじゃない方が発言をされるような事態が生じる可能性があるのなら、傍聴という言葉ではなくて、違う言葉にも置き換えて話をされたほうが、その事実を基にして、今後、傍聴が発言できるじゃないかと言われても困るので、そこはしっかり取り組んでやっていただきたいというふうに思います。

杉本保喜委員 高松委員が言われるように、傍聴者という言葉で、常識としては意見を述べられないというのが常識なんです。会議の中で傍聴者に意見を求めるというのも、本当は良くないことなんです。混乱の元になる。そういうことが世の会議の中の常識のはずなんです。だから、逆に議員のほうに、傍聴議員に意見を求めるのも駄目だというのは、私は会議の原則の一つだというのが常識だと思うんです。だから、その辺は正に副委員長が言われるように、早く一線を引いても何ら問題はないと思います。常識の範ちゅうで線を引くんですから。

長谷川知司委員長 ほかに意見はありませんか。これについては次回委員会のときに、それを議題にして話したいと思います。そのほかにございますか。また、6月議会をどうするかは議案が出てから、委員会を開くことがあると思いますので、御協力をお願いします。それでは今日の委員会を終わります。

午後2時10分 散会

平成30年5月29日

広聴特別委員会委員長 長谷川知司